

令和元年度大阪府立八尾支援学校 第1回学校運営協議会報告

□日 時 令和元年7月5日(金) 午前10時～12時

□場 所 大阪府立八尾支援学校 校長室

□学校運営協議会委員会名簿

◆学校運営協議会委員（50音順）

岡崎 裕子	（大阪大谷大学 教育学部 教授）
熊谷 友紀子	（東大阪市立第一はばたき園 園長）
辻内 文子	（八尾市障がい福祉課 課長）
西 千志	（本校 PTA 会長）
西 喜一	（上之島地区福祉委員会 委員長）
山崎 高義	（東大阪市立障害者就業・生活支援センター 所長）

◆大阪府立八尾支援学校

東野 裕治	（校長）
森本 裕	（准校長）

◆学校運営協議会事務局

岡本 泰宜	（教頭）	山田 美也子	（教頭）
山崎 静一	（事務長）	荒木 智恵子	（首席）
井川 忠都	（首席）	松永 記一	（首席）
荒木 聖	（首席）	松村 由美	（小学部主事）
藤田 景一	（中学部主事）	増本 香	（高等部主事）

□出席者

- ◆ 委員5名、校長、准校長、事務局9名 計16名
- ◆ 傍聴者6名（本校 PTA）

□次第と協議内容（要約）

○校長あいさつ

○学校運営協議会委員及び事務局の紹介

*会長・副会長の選出

会長：岡崎 裕子 様 副会長：西 千志 様

○学校運営協議会実施要項（説明）

○令和元年度学校経営計画及び教職員の体制（報告）

*学校経営計画（全校及び小・中）

めざす学校像は「子どもたちとともに『こころ』と『からだ』を育む学校」

中期的目標として3項目挙げている。今年度新たな取組みとして以下に挙げる。

「1 支援教育における専門性及び指導技術の向上」

- ・教材・教具の充実及び共有化、アーカイブ化を推進し、授業の質の向上・平準化を図る。・・・良い指導は継承してバージョンアップし、授業準備にかかる時間を減らし子どもに向き合う時間に充てる。
- ・ICT 機器の活用・・・小学部のゆうぎ室に電子黒板化ユニット等設置する。
- ・リーディングスタッフの教員が校内支援も担い、若い教員の相談に当たる。専門書をさらに充実させる。

「2 キャリア教育・進路指導及び魅力ある取組みの充実による自立や社会参加の実現」

- ・パラスポーツを取り入れ、スポーツできる環境を整えていく。・・・フライングディスクのセットを購入。

「3 安全安心で活力あふれる組織及び学校作り」

- ・ヒヤリハットの共有・・・事案を共有し、大きな事故を未然に防止する。

*学校経営計画（高）

中期的目標は（全校、小・中）と同じ3項目。「1」は上と同じ。

「2 キャリア教育・進路指導及び魅力ある取組みの充実による自立や社会参加の実現」

- ・卒業後の自立を見すえたキャリア教育を行う。今年度、3学部連携によるキャリアサポートプログラムを企画

「3 安全安心で活力あふれる組織及び学校作り」

- ・快適な学習環境・職場環境の構築として、一人一人の教員がどれに取り組んでどこに向かい、いつまでに実現するか、アクションプランを立てていく。

*「学校運営推進費のプレゼンテーション」（教育庁での審査で行ったもの）を披露。

生きる力をしっかり伸ばす「八尾アスレチックフィールド」として採用された。年度内を目途に整備予定。

*教職員の体制

児童生徒数が20人増えたが、教職員の増加は3人。（学級数により決まるので）手薄と思われるところに、非常勤の教員を配置。

リーディングスタッフ、実習助手等の説明

分掌について・・・変わった点としては、一つの分掌を二つ（生活安全部、保健衛生部）に分けた。また、昨年度まで「進路部」だった分掌名を「キャリアサポート部」に変更した。（出口指導ということではなく、小学部段階から子どもたちのキャリアを支えていくという意味で）

○各学部の状況（報告）

【小学部】

- ・今年度の人数 123名。増加の一途。地域の幼稚園・保育所からの入学も増加。
- ・知的障がいだけでなく多様化し、医療的ケアの必要な児童も2名在籍している。
- ・小学部の目標としては、6年間を通じて「身辺自立を図る」「自分の気持ちをうまく伝える力を育てる」「周りの人と良好な関係を築く力の基礎をつくる」が挙げられる。
- ・近年、対応に福祉機関やデイサービス等との連携が必要なケースも増えてきている。

【中学部】

- ・中学部の目標の中では、特に「集団」をキーワードとして挙げたい。運動会を経て、1年生も入学時に比べ、クラスや学年、学部といった集団に入れるようになってきた。
- ・今年度の人数 175名。3学部の中で、最も多い。
- ・今年度の時間割の新しい点・・・週2時間あった「アクティブタイム」を、「道徳」と「総合」に変更した。「道徳」は、自分自身の事から、周りとの関係、自然について等の内容に取り組んでいる。また「総合」では、学級活動や学年活動としていろいろなことを行っている。
- ・国数社理は、各学年で6～8班を編成して行う。体音美は、各学年とも3グループ編成。
- ・進路状況としては、卒業生56名。内2割が通学区域が変わったり他の学校へ進学したり（近年多様化）している。

【高等部】

- ・一人ひとりの自立、社会参加を目標としている。
- ・今年度の人数 115名。年々生徒数は増加している。クールダウンする教室がない。軽度発達障がいの生徒も増加し、生徒指導の対応が求められている。
- ・来年度より通学区域が変わり、八尾市在住の生徒のみとなる。
- ・生徒の発達段階や学習到達状況に応じて班編成し、各教科の授業を行っている。

○進路状況（報告）

- ・高等部卒業生 30名
生活介護・・・11名 就労継続支援B型・・・8名 自立訓練・・・4名
就労移行支援事業所・・・1名 就労継続支援A型・・・1名
一般就労・・・5名

○＜質疑応答・意見・感想等＞

Q：高等部の進路指導の課題で離職の話があったが、説明にあったように校内実習や企業体験を増やしていくことはとても大切であるが、『働きたいという気持ち（意欲）』を育む教育も大切にしてほしい。働くための土台作りとしてしっかり時間をかけて取り組んでほしい。

A：同じ思いをもっている。生徒が自分自身を理解できる力を高めていきたいと考えている。就職率にこだわらず、離職率を下げるよう職業訓練校なども利用すべきだと思っている。

Q：就労も大切だが、福祉サービス（作業所）にもいろいろな事業があり、同じ事業でも作業所によって雰囲気や内容も異なる。子どもの可能性を大切にして、進む道を決めて欲しい。そのためにも保護者の方への情報発信が大切になるので、その方法を考えてほしい。

A：PTA との共同で今年 9 月 17 日に、19 の法人（＝44 の施設作業所）が集って、本校体育館にて保護者向けの「施設・作業所合同説明会」を開催する予定となっている。

A：学校経営計画であったように小中高一貫して、子どもの将来を見据えたキャリア教育を進め保護者ととともにしっかりと考えていきたい。

Q：八尾支援学校の課題として説明があった「若手教員とベテラン教員の二極化が進み、その間をつなぐ人材が欠けている状況」は、園や小学校、中学校どの学校でもみられると思う。その解決策として、例えば、3 年間程の人事交流を小学校と支援学校の間でもっと増やしていくことはできないだろうか？

A：とても大切なことだと思うが、小学校は任命権者が市教育委員会で、支援学校は府立なので教育庁が任命権者となり、給料体系が異なり難しいのが現状。人事交流はないことはないが、複雑な手続きが必要なので盛んではない。今後、そういった人事交流が盛んになればいいと思う。

Q：昨年度の不適切な指導は、専門性の引継ぎにも関係すると思う。どのような対策をたてたのか。

A：対策としては

- ・チェックリストの実施（月 1 回以上部会にて実施）
- ・人権研修にて、体罰防止やアンガーマネージメント等の研修を実施
- ・本校の行動指針を策定
- ・PTA の校内巡回など

A：同僚性が重要。この一件で教員の意識改革が行われ、他の教員の言動を教員どうして指摘することが増えた。

Q：地域の保育園や幼稚園から、新入生が毎年たくさん入ってくるが、児童の引き継ぎはどのようにして行っているのか？地域の小学校では、園から情報が上がってこないので入学後のトラブルが多発していると聞いているが。

A：入学相談に保護者からの聞き取りを行い、入学前に教員が園まで赴き、引き継ぎを行っている。場合によっては、入学後も園や関係機関とのケース会議等を行って対応している。

Q：中学部の入学生で地域の割合はどれくらいか？

A：本年度は 64 名中 21 名が本校小学部より、残りの 43 名が地域生となる。中学部についても小学部同様、保護者との教育相談及び地域の小学校へ赴き、引き継ぎを行っている。

A：小学校や中学校の支援学級担当者は、「個別の教育支援計画」を作成している。しかし、活用できているのかは疑問。本来「個別の教育支援計画」は保護者のものであることをしっかりと認識できているとは言い難いのが現状である。その地域からの入学者については、「個別の教育支援計画」が届かないケースもあり、このあたりも課題となっている。

意見①：施設・作業所の情報を保護者に広めてほしいというご意見は、昨年度も出た内容。本年度 PTA との協力により実現することは、大変喜ばしい。

意見②：「学校経営推進費の報告でボルタリングを選んだ理由を聞いて良かった。体を動かす楽しみが日常的にできることが素晴らしいと思う。また、アイデアが教員から出て、まとめられたということについても素晴らしいことだと思う。

意見③小中の教員が施設作業所を3年に1回は行くことは、とても大事なことだと思う。

意見④：障がい者支援セミナーを実施しており、今年はひばり作業所から2名の方が参加して、実習を行っている。具体には8・9・10・11月の第4金曜日に労働してもらっている。共生社会の実現をめざして行っているの、見学にも来ていただきたい。

○授業アンケートについて

- ・資料の説明。授業参観者数がかかなり多かった。
- ・各部の保護者からのご意見について報告。良いご意見がたくさんあった。若干であるが厳しいご意見もあった。
- ・高等部で前回の授業参観が「生活」だったが、今回も授業参観が「生活」であった。今後は短期間に同じような内容とならないよう配慮していく。

○学校教育自己診断

- ・学校教育自己診断の主旨を説明。
- ・保護者、生徒、教職員の意見を反映させ、学校経営計画の達成度の判断基準としている。
- ・子どもたちが「わからない」と答える数値を下げるため、文言の訂正を各関係する分掌等に依頼している。
- ・昨年の学校運営協議会でご意見をいただいていた、学校全体としての傾向（達成度）を出すだけでなく、本年度は各学部の傾向（達成度）も出す予定である。

○令和2年度 教科書選定について

現在、選定中。次回の学校運営協議会にて、どのような教科書を採用したかも見て頂く予定。

次回の運営協議会開催は、例年通り11月下旬を予定している。その際、授業見学も予定している。

希望：昨年度から行っている授業見学は、子どもたちの成長をみるのが主旨だった。今年は全体ではなく、何かの観点を持って観たい。例えば、販売学習やICTの取り組みを行っている授業などの絞って見学できれば有難いと考えている。

○准校長あいさつ

○閉会